

霞が関で働く

国家の グランドデザインを描く 仕事とは

●講演：大西 珠枝 (玉川大学教育博物館長・芸術学部芸術教育学科教授)

●司会：菅 孝行 (小論文講師)

..... 大西珠枝さんからのメッセージ



公務員は、世のため人のために働くというやりがいのある仕事です。最近では**中央省庁**でも、女性の登用の方針が打ち出され、**女性の採用、幹部への登用**も増えています。**入省**するのは特定の省ですが、**外国の大使館勤務、他省庁、地方自治体、独立行政法人、国立大学法人**などへの出向などを通じて、

いろいろな経験ができます。

中央省庁での人事異動は、人材育成を考えて行われます。特に、**ジェネラリスト**を目指す**キャリア(総合職)**は、**ファストラック**に乗ってたびたび異動し、他のコースで採用された人に比べて昇進が早いことが特徴です。たびたび転勤があって大変ですが、それを通じて全国を知ることができます。

国会との付き合い、**議員**との交渉は、**法律、予算**を通じて国家を形作るためには、**公務員**の必須の仕事です。国民の要望を背負いながら、国益を考え、議員の要求を受けとめつつ、利害関係を調整していく**霞が関**の仕事は、非常に難し

く、骨身を削られる仕事ですが、ひとつの国の中には、違った境遇、ちがった職業、違った意見の人たちが複雑に絡まり合っていて生活している以上、出来るだけ多くの人が納得のゆく結論に導く仕事を誰かがやらなければなりません。それを引き受けるのが、**中央省庁の公務員**の仕事です。

公務員は、自分が深くかかわりあって制度を作り上げた時でも、そこに自分の銘は入りません。それでも、その制度によって、多くの人を少しでも幸せな生活に近づけたい、それにはどうすればいいか、というイメージを描く想像力が**仕事の支え**になります。給料などの処遇は、成功した起業家や、一部のトップ企業と比べればほどほどだけれど、やりがいはたっぷりある、と自信を持って言えます。

県職員、市職員などの**地方公務員**もまた、やりがいのある、世のため、人のためになる仕事であることに変わりはありません。**地方分権、地方の時代、地域の再建**といったことが叫ばれ、その重要性が認識されるようになってきたことには必然性があります。

でも、**中央省庁**で働いた経験から、そこでしか得られない、**国全体を対象にする手ごたえの重み**というものがあると私は信じています。

大西 珠枝 : 1978年3月京都大学法学部卒業、同年4月文部省入省、初等中等教育局、高等教育局、静岡県掛川市教育長、文化庁文化政策室長、文部省生涯学習局社会教育課長、総理府男女共同参画室長、岡山県副知事、文部科学省政策評価審議官、国土交通省大臣官房審議官(観光)、文化庁文化財部長などを歴任、2008年7月京都大学理事・副学長、10年8月放送大学学園理事、13年10月文部科学省退職、今年から現職。

7月1日(火) 18:00~20:00

新宿校 601教室

入場無料
申込不要

〒160-0023 新宿区西新宿 7-12-1
☎0120-198520
●JR・小田急線・京王線・東京メトロ丸ノ内線・都営新宿線 / 新宿駅西口より徒歩3分
●都営大江戸線 / 新宿西口駅D4出口より徒歩1分
●西武新宿線 / 西武新宿駅南口より徒歩3分

